

「第3次豊中アジェンダ21」2022年度評価

<評価の対象・項目>

- ・「第3次豊中アジェンダ21」でも引き続き、毎年実績を検証・評価し、行動提案は総会にて公表。

評価項目	関係	頻度	公表の方法
環境目標	環境基本計画と共有	毎年	豊中市環境報告書
行動提案		毎年	とよなか市民環境会議 総会

・「第2次豊中アジェンダ21」は個別の行動提案ごとに評価を実施していたが、「第3次豊中アジェンダ21」では望ましい環境都市像のテーマごとの総合評価に変更。

・評価項目や個別の評価指標は、状況に応じて追加・見直しをしながら運用していく。

項目	評価指標	評価方法
①統計や行政の行動の指標	行動提案と一緒に記載の評価指標	数値の増減を前年度比で比較
②市民・事業者の行動の指標		
③構成団体チェックシート	行動提案の平均実施率	数値の増減を前年度比で比較
④市民の取組みの質的な評価	文章を作成して表現	状況の改善などを数値に換算
総合評価		①～④の評価をあわせて数値化

※一部のテーマでは適当な取組みがないため、市民・事業者の行動の指標を設定していない

<評価の記載方法（総合評価のまとめ）>

テーマごとの総合評価の結果を記載

昨年度の結果と比較できます

関連するSDGsの主なテーマ	望ましい環境都市像			総合評価の結果	(参考)昨年度の結果
17 パートナーシップで目標を達成しよう	パートナーシップで目標を達成しよう	市民参加・協働	地域の環境活動に市民・事業者が参加し、行政とともに協働で取り組むまち	B (5点)	B
12 つくる責任つかう責任	つくる責任つかう責任	人にやさしい	多様な世代が地域の中でつながり、安全・安心に住み続けやすいまち	C (0点)	C

2022年度 総合評価のまとめ

B評価が6つ、C評価が6つ、前年度よりB評価が3つ増えて、D評価もなくなりました。（以下略）

2.5点
※全テーマの平均

0.8点

まとめの内容を
文章にてコメント

テーマごとの総合評価の結果を点数化し、平均した値を10点満点に計算
※プラスの値：進捗とみなす

<評価の記載方法（各テーマごとの総合評価）>

直近の数値（2022）について、前年度（2021）からの増減を表しています

項目	指標名	2020	2021	2022	増減等
①統計や行政の行動の指標	とよなか市民環境会議の構成団体数	136 団体	134 団体	133 团体	△1 团体
②市民・事業者の行動の指標	市民、事業者の環境活動の取組み事例数	26 件	39 件	—	13 件

2022 年度の数値がない場合は網掛けをし、「—」と記載しています。この場合、2021 年度の数値について 2020 年度からの増減を表しています

④市民参加の質的な評価	新型コロナウイルス感染症の影響があるも 催するエコ市民賞は継続して応募を得られ ています。	市民の状況を文章で説明し、 3 段階で評価します	B
【市民参加・協働】の総合評価			

<総合評価の補足説明>

- ②市民、事業者の環境活動の取組み事例数の 2022 年度の数値が判明するのは（以下略）
- ②とよなか市民環境展は、来場者数、出展団体数とともに増加したものの（以下略）

指標の数値に現れない説明などを記載し、総合評価の際に考慮しています

①～④の評価を総合し、
5 段階で評価します

<数値等の引用や作成>

- ①豊中市（行政）が主に把握している数値。
- ②NPO 法人とよなか市民環境会議アジェンダ 21、および豊中市が把握している市民の取組みの数値。
- ③とよなか市民環境会議の構成団体（133 団体）を対象に、2023 年 3～4 月に実施し、51 団体が回答。
- ④とよなか市民環境会議で作成。

<評価の手順>

- ①②でテーマごとに設定している指標の数値を各年度に入れる。
③は構成団体から回答された実施率を計算し、各年度に入れる。
- 直近の数値（2022 年度）について、前年度（2021 年度）と比較し、前年度からの増減を記載する。
増減の割合に応じて評価する。

※直近の数値が把握できていない場合は、前年度（2021 年度）と前々年度（2020 年度）の数値を比較。

- ④は①～③以外の内容について、市民の活動状況を文章で説明して評価する。

※文章の内容を、良い○・普通○・課題がある△の 3 段階に換算して表現する。

- ①～④の評価を総合し、5 段階で評価する。

※高い評価 A・評価できる B・普通 C・少し課題がある D・とても低い評価 E

※評価の際には、<総合評価の補足説明>の内容を考慮する。

-
- テーマごとの A～E の総合評価を点数に換算する（A：10 点、B：5 点、C：0 点、D：-5 点、E：-10 点）。
 - 換算した点数の平均を計算し、10 点満点で評価する。（※小数第 2 位を四捨五入する）
 - 10 点満点の数値がプラスであれば、望ましい環境都市像の実現に向けて進捗をした、また、数値がマイナスであれば、望ましい環境都市像の実現に向けて後退したとみなす。

<2022年度 総合評価のまとめ>

関連する SDGs の主なテーマ	望ましい環境都市像			総合評価 の結果	(参考) 昨年度 の結果		
17 パートナーシップで目標を達成しよう 	パートナーシップで目標を達成しよう	市民参加・協働	地域の環境活動に市民・事業者が参加し、行政とともに協働で取り組むまち	B (5点)	B		
12 つくる責任つかう責任 	つくる責任つかう責任	人にやさしい	多様な世代が地域の中でつながり、安全・安心に住み続けやすいまち	C (0点)	C		
11 住み続けられるまちづくりを 	住み続けられるまちづくりを	まちづくり	地域活動が活発で、地域の特徴に応じたまちづくりができるまち	C (0点)	C		
4 質の高い教育をみんなに 	質の高い教育をみんなに	環境学習・環境教育	みんなが環境についてともに学び、行動に取り組むまち	C (0点)	C		
13 気候変動に具体的な対策を 	気候変動に具体的な対策を	地球環境	地球温暖化を今よりも進めないため、自分にできることから取り組むまち	C (0点)	C		
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	エネルギー	くらしの中で省エネルギーを意識し、みんなで自然エネルギーの導入に取り組めるまち	B (5点)	B		
11 住み続けられるまちづくりを 	住み続けられるまちづくりを	交通	歩きやすく、自転車で走りやすく、公共交通の便利なまち	B (5点)	C		
12 つくる責任つかう責任 	つくる責任つかう責任	省資源・循環型社会	ごみになるものを減らし、資源として循環することができるまち	C (0点)	B		
2 飢餓をゼロに 	飢餓をゼロに	食・農	地産地消で広がる活き活き農業と、「とよっぴー」を紡いで食育が実感できるまち	B (5点)	C		
15 陸の豊かさも守ろう 	陸の豊かさも守ろう	自然との共生	多様な生き物がすみ、みどり豊かで、水辺に親しむことができるまち	B (5点)	C		
11 住み続けられるまちづくりを 	住み続けられるまちづくりを	歴史・文化	身近なところで、育んできた歴史・文化・景観を感じられるまち	B (5点)	D		
6 安全な水とトイレを世界中に 	安全な水とトイレを世界中に	音・水・大気	騒音や有害な化学物質のない、きれいな水や空気があるまち	C (0点)	C		
14 海の豊かさを守ろう 	海の豊かさを守ろう						
2022年度 総合評価のまとめ				2.5 点 ※全テーマの平均	0.8 点		
B評価が6つ、C評価が6つ、前年度よりB評価が3つ増えて、D評価もなくなりました。新型コロナウイルス感染症の影響から回復しつつあり、全体的に数値の改善が見られます。構成団体の行動提案の実施率は、2021年度と比べてすべての「望ましい環境都市像」において上昇し、構成団体それぞれの活動は進んでいることがうかがえます。なお、一部の指標の数値は、2019年度以前に及ばないものがあるため、引き続き注視していくことが求められます。							

<2022年度 各テーマごとの総合評価>

【市民参加・協働】地域の環境活動に市民・事業者が参加し、行政とともに協働で取り組むまち

項目	指標名	2020	2021	2022	増減等
①統計や行政の行動の指標	とよなか市民環境会議の構成団体数	136 団体	134 団体	133 团体	△1 団体
②市民・事業者の行動の指標	市民、事業者の環境活動の取組み事例数	26 件	39 件	—	13 件
	とよなか市民環境展の来場者数、出展団体数	691 人 32 団体	1,682 人 32 団体	2,232 人 35 団体	550 人 3 団体
	環境交流センター来館者数、会議室等利用回数	9,822 人 388 回	11,900 人 434 回	15,763 人 480 回	3,863 人 46 回
③構成団体チェックシート	市民環境展への協賛・寄付	46,400 円	246,311 円	235,374 円	△10,937 円
④市民参加の質的な評価	新型コロナウイルス感染症の影響があるものの、とよなか市民環境会議が主催するエコ市民賞は継続して応募を得られています。				○

【市民参加・協働】の総合評価

<総合評価の補足説明>

- ②市民、事業者の環境活動の取組み事例数の 2022 年度の数値が判明するのは 2023 年 7 月以降となるため、2021 年度の数値を直近の値として評価しています。なお、2018 年度は 192 件であったことから、事例数の把握などには一定の課題があると見込まれます。
- ②とよなか市民環境展は、来場者数、出展団体数ともに増加したものの、2019 年度の 3,600 人、43 団体と比べるとまだ下回っています。ただし、新型コロナウイルス感染症対策により、来場者数は実数でのカウントになっていることも考慮が必要です。
- ②環境交流センター来館者数、会議室等の利用回数は、いずれも増加しました。利用回数は 2018 年度の 486 回と同程度まで回復したものの、来館者数は 2019 年度以前の 18,000 人台にまでは及んでいません。
- ③構成団体の行動提案の実施状況は、全体の実施率が 10% 以上も上昇しました。ただし、行動提案「豊中アジェンダ 21 を多くの市民、事業者に PR しよう」や「市民も費用を出し合って、豊中アジェンダ 21 活動を支えよう」は 50% 以下の実施率となっています。
- 今後は、とよなか市民環境会議の構成団体数や市民、事業者の環境活動の取組み事例など、減少傾向にある指標について、改善していくことが求められます。構成団体の拡充や活動の活性化などについて、引き続き検討を進めていくことが考えられます。

B

【人にやさしい】多様な世代が地域の中でつながり、安全・安心に住み続けやすいまち

項目	指標名	2020	2021	2022	増減等
①統計や行政の行動の指標	とよなか百万歩ウォーク参加者数		2020 年度以降は開催していない		=
②市民・事業者の行動の指標	NPO アジェンダ（企画屋本舗）行事参加者数	30 人	45 人	84 人	39 人
	環境マネジメントシステムの導入事業所数	29 件	31 件	27 件	△4 件
③構成団体チェックシート	行動提案の 5 項目の平均実施率	62.79%	60.70%	63.92%	3.22%
④市民参加の質的な評価	千里文化センター「コラボ」では千里周辺のまち歩きを行うなど、市内でまちを知る企画が実施されています。				○

【人にやさしい】の総合評価

<総合評価の補足説明>

- ・①とよなか百万歩ウォークは、大阪府全体で実施する別事業へと移行したため、2020 年度以降は未実施となっています。
- ・②NPO アジェンダ（企画屋本舗）の参加者数は増加し、2019 年度の 80 人と同程度の人数まで回復しました。
- ・③構成団体の行動提案の実施状況は、過去 3 年間は概ね横ばいで、全体で 60% を上回っています。一方で、行動提案「ISO14001 など既存の環境マネジメントシステムの認証取得や、独自の環境マネジメントに取り組もう」は実施率が 40% を下回っています。
- ・今後は、「第 3 次豊中アジェンダ 21」の見直しを契機に、地域でのつながりや、環境分野における安心・安全のあり方について考え、行動していくことが求められます。

C

【まちづくり】地域活動が活発で、地域の特徴に応じたまちづくりができるまち

項目	指標名	2020	2021	2022	増減等				
①統計や行政の行動の指標	地域清掃活動登録企業数	12 団体	12 団体	12 団体	0 団体				
	生垣緑化・沿道緑化助成件数	5 件	2 件	6 件	4 件				
②市民・事業者の行動の指標	みどりのカーテン参加団体数	64 団体	64 団体	62 団体	△2 件				
	花いっぱい運動実施場所数	34 か所	37 か所	37 か所	0 か所				
③構成団体チェックシート	行動提案の 5 項目の平均実施率	48.84%	57.19%	66.67%	9.48%				
④市民参加の質的な評価	新型コロナウイルス感染症の流行があったものの、地域清掃や地域での緑化などの屋外での活動は着実に実施されています。			<input type="radio"/>					
【まちづくり】の総合評価									
<総合評価の補足説明>									
<ul style="list-style-type: none"> ①生垣緑化助成は、助成対象を沿道緑化にまで広げたことで、助成件数が増加しました。 ②みどりのカーテン参加団体や花いっぱい運動実施場所数は、概ね横ばいで推移しています。 ③構成団体の行動提案の実施状況は、協働でまちづくり等に取り組む「ネットワーク」や、地域や事業所の緑化を進める「みどりのまち」の実施率が 10%以上向上したことにより、テーマ全体の実施率も上昇しました。 今後は、地域の特徴に応じたまちづくりにつながるような行動や、地域での活動の広がりなどが求められます。 									
C									

【環境学習・環境教育】みんなが環境についてともに学び、行動に取り組むまち

項目	指標名	2020	2021	2022	比較等
①統計や行政の行動の指標	出前環境学習の実施回数	3回	11回	9回	△2回
	緑化リーダー養成講座受講者数	18人	25人	33人	8人
②市民・事業者の行動の指標	NPO アジェンダ（事業部会）の行事参加者数	57人	60人	73人	13人
③構成団体チェックシート	行動提案の4項目の平均実施率	48.26%	49.12%	58.33%	9.21%
④市民参加の質的な評価	新型コロナウイルス感染症の影響が緩和されてきたことにあわせて、環境学習・環境教育の実施も回復傾向にあります。				○

【環境学習・環境教育】の総合評価

<総合評価の補足説明>

- ①緑化リーダー養成講座受講者数は、2020年度以降で見ると増加傾向にありますが、2019年度までは初級・中級・上級コースの3か年であったのに対して、2020年度からは基礎・応用コースの2か年の合計となったため、参加者は2019年度以前にまでは及んでいません。
- ③構成団体の行動提案の実施状況は、「環境学習・環境教育」「人材育成」のいずれも実施率が向上したことにより、テーマ全体の実施率も大幅に上昇しました。
- 今後は、新型コロナウイルス感染症の影響により制限されていた地域活動などで環境学習を再開するとともに、環境活動に関心の少なかった市民へのアプローチを進めていくことが求められます。

C

【地球環境】 地球温暖化を今よりも進めないため、自分にできることから取り組むまち

項目	指標名	2020	2021	2022	増減等
①統計や行政の行動の指標	1人あたり温室効果ガス排出量	3.20 t-CO2	3.15 t-CO2	—	△0.05 t-CO2
②市民・事業者の行動の指標	対象事業（環境交流センター）の参加者数	27人	72人	78人	6人
③構成団体チェックシート	行動提案の3項目の平均実施率	70.54%	63.74%	75.16%	11.42%
④市民参加の質的な評価	持続可能な生活（サステナライフ）の考え方や実践が市民の間で少しずつ広まりつつあります。				○

【地球環境】の総合評価

<総合評価の補足説明>

- ・①1人あたり温室効果ガス排出量の2022年度の数値が判明するのは2023年7月以降となるため、2021年度の数値を直近の値として評価しています。電力の自由化によりこれまで市内の販売電力量についてすべての把握が難しい状況にありましたが、一般送配電事業者の協力により、市域全域の総電力量を把握できるようになりました。2020年度と比べて2021年度の排出量の値は減少したものの、2019年度以前と比べると値が増加しています。
- ・②対象事業（環境交流センター）の参加者数は、2021年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、参加者の約半数がオンライン参加でしたが、2022年度はすべて会場での参加者数となりました。
- ・③構成団体の行動提案の実施状況は、今を生きる人の行動やフェアトレード商品の購入などが該当する「共生・連携」の実施率が約10%以上向上したことにより、全体の実施率も上昇しました。
- ・今後は、2022年に豊中市が改定した「第2次豊中市地球温暖化防止地域計画（改定）～とよなか・ゼロカーボンプラン～」の推進を通して、引き続き市民にゼロカーボンに向けた取組みを広く進めていくことが求められます。

C

【エネルギー】くらしの中で省エネルギーを意識し、みんなで自然エネルギーの導入に取り組めるまち

項目	指標名	2020	2021	2022	増減等				
① 統計や行政の行動の指標	1人あたりのエネルギー消費量	36.1GJ	35.1GJ	—	△1.0GJ				
	太陽光発電補助による導入量	376kw	364kw	503kw	139kw				
② 市民・事業者の行動の指標	市民向け地球温暖化対策事業によるCO2削減量	4,638kg	12,723kg	—	8,085kg				
	エコポイントチケット「とよか」配布枚数	2,540枚	4,119枚	6,679枚	2,560枚				
③ 構成団体チェックシート	行動提案の6項目の平均実施率	76.74%	76.02%	82.03%	6.01%				
④ 市民参加の質的な評価	電気代・ガス代などが高騰していることにより、これまであまり関心がなかった市民もエネルギーについて関心を持つようになりつつあります。								
【エネルギー】の総合評価									
<p>＜総合評価の補足説明＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①1人あたりのエネルギー消費量の2022年度の数値が判明するのは2023年7月以降となるため、2021年度の数値を直近の値として評価しています。温室効果ガス排出量と同様で、市域全域の総電力量を把握できるようになったことから、2020年度と比べて2021年度のエネルギー消費量の値は減少したものの、2019年度以前と比べると値が増加しています。 ②市民向け地球温暖化対策事業によるCO2削減量の2022年度の数値が確定していないため、昨年度と同様に2021年度の数値を直近の値として評価しています。 ③構成団体の行動提案の実施状況は、全体としてやや増加し、引き続き高い実施率を維持しています。特に「温室効果ガス排出量の削減」の実施率が90%を超える一方で、「創エネルギー」の実施率は、50%強にとどまっています。 今後は、マチカネポイントなどを活用し、家庭や事業所でのカーボンゼロに向けた取組みの促進が求められます。 									
◎ B									

【交通】歩きやすく、自転車で走りやすく、公共交通の便利なまち

項目	指標名	2020	2021	2022	増減等
①統計や行政の行動の指標	自動車保有台数（総数）	152,370 台	152,074 台	152,396 台	322 台
	電気自動車充電スタンド数	29 か所	28 か所	28 か所	0 か所
	阪急電車の利用者数	138,666 人	139,303 人	—	637 人
	カーシェアリングの台数	243 台	288 台	298 台	10 台
	自転車通行空間整備状況	8.86km	12.15km	16.79km	4.64km
②市民・事業者の行動の指標	エコドライブキャンペーンの参加者数	113 人	117 人	144 人	27 人
③構成団体チェックシート	行動提案の 14 項目の平均実施率	52.66%	51.13%	57.28%	6.15%
④市民参加の質的な評価	2022 年 10 月の国の調査では再配達率が 11.8% で、前年同月の 11.9% から横ばいとなっています。一方で、郵便受け・宅配ボックスのメーカーの調査による置き配の割合が 6 割を超え、2019 年度から 2.3 倍になったと報告されています。				(○)

【交通】の総合評価

<総合評価の補足説明>

- ①自動車保有台数（総数）はやや増加したものの、全体では減少傾向が続いています。一方で、増加傾向にあったカーシェアリングの台数は、一部企業のコインパーキングで台数が減少に転じるなど、全体でやや頭打ちとなりつつあります。
- ②阪急電車の利用者数の 2022 年度の数値が判明するのは 2023 年 7 月以降となるため、2021 年度の数値を直近の値として評価しています。なお、2019 年度以前は利用者数が 18 万人台でしたが、2020 年度以降は 13 万人台と大幅に減少しています。
- ③構成団体の行動提案の実施状況は、全体としてやや上昇しました。「共同集配」の実施率が 14% 向上したことが全体の実施率を引き上げています。
- 今後は、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが変更することに伴い、市民のライフスタイルがどれくらい変化するかを注視するとともに、それにあわせた取組みの実施が求められます。

B

【省資源・循環型社会】ごみになるものを減らし、資源として循環することができるまち

項目	指標名	2020	2021	2022	増減等
①統計や行政の行動の指標	1人1日あたりのごみ量	813g	808g	—	△5g
	環境関連施設の見学者数	7,478人	11,211人	13,699人	2,488人
②市民・事業者の行動の指標	マイバッグ持参率	84.8%	84.2%	84.0%	△0.2%
	豊中エコショップ認定店舗数	158店	174店	186店	12店
	リサイクル工作参加者数	33人	51人	25人	△26人
③構成団体チェックシート	行動提案の8項目の平均実施率	65.99%	66.01%	71.32%	5.31%
④市民参加の質的な評価	家庭で眠っている食品を回収・活用するフードドライブの回収量は増加しており、市民の参加が定着しつつあります。	(◎)			

【省資源・循環型社会】の総合評価

<総合評価の補足説明>

- ①1人1日あたりのごみ量の2022年度の数値が判明するのは2023年7月以降となるため、2021年度の数値を直近の値として評価しています。
- ②環境関連施設の見学者数（3つの施設の合計人数）は増加傾向にありますが、2019年度以前は16,000人台であったことから、2019年度と比べるとまだかなり下回っています。
- ③リサイクル工作参加者数は、広報とよなかのリニューアルに伴い、募集の掲載回数が減ったことが影響しました。
- ④構成団体の行動提案の実施状況は、2021年度に廃棄物の削減など「事業者の心がけ」の実施率が上昇しましたが、2022年度はそこから横ばいとなりました。
- 今後は、「第3次豊中アジェンダ21」の中間見直しに伴い、これまでよりも省資源につながる指標を設定し、市民の取組みを評価していくことが求められます。

C

【食・農】地産地消で広がる活き活き農業と、「とよっぴー」を紡いで食育ができるまち

項目	指標名	2020	2021	2022	増減等
① 統計や行政の行動の指標	「とよっぴー」製造量	76.2t	92.9t	94.8t	1.9t
	地域産野菜等の学校等給食提供回数	130回	109回	114回	5回
	市民農園申込者数	1,462人	1,319人	1,366人	47人
② 市民・事業者の行動の指標	「とよっぴー」の購入者数	800人	964人	1,117人	153人
	地産地消野菜の購入者数	1,189人	1,195人	1,336人	141人
	食育学習の回数、参加者数	40回 982人	68回 1,476人	81回 1,394人	13回 △82人
③ 構成団体チェックシート	行動提案の6項目の平均実施率	62.02%	53.51%	65.69%	12.18%
④ 市民参加の質的な評価	地産地消野菜については、引き続き市内各地のイベント等で着実に販売が行われています。				○

【食・農】の総合評価

<総合評価の補足説明>

- ①「とよっぴー」の製造量は、2018年度の製造量が約106トンであったことから、全体的に食品残差は減少傾向にあると考えられます。
- ②「とよっぴー」の購入者数、地産地消野菜の購入者数、食育学習の回数は、いずれも増加したものので、2018年度はそれぞれ順に1,320人、1,807人、136回であったことから、2018年度と比べてまだかなり下回っています。
- ③構成団体の行動提案の実施状況は、食品ロスをなくすといった「資源循環」や、「食育」活動の推進の実施率が大幅に改善し、2020年度と同程度にまで上昇しました。
- 今後は、新型コロナウィルス感染症の影響により減少した指標等について、以前の水準に戻るかどうかを注視するとともに、引き続き市民が食や農にふれる多様な機会を確保していくことが求められます。

B

【自然との共生】多様な生き物がすみ、みどり豊かで、水辺に親しむことができるまち

項目	指標名	2020	2021	2022	増減等
①統計や行政の行動の指標	緑被率	調査年ではないため未実施	12.9%	調査年ではないため未実施	=
	特定外来生物措置件数	13 件	16 件	39 件	23 件
	タヌキ・キツネの相談件数	5 件	12 件	26 件	14 件
	ため池の箇所数	36 か所	36 か所	36 か所	0 か所
②市民・事業者の行動の指標	NPO アジェンダ（自然部会）行事参加者数	534 人	595 人	623 人	28 人
	自主管理登録団体数	172 団体	169 団体	174 团体	5 团体
③構成団体チェックシート	行動提案の 13 項目の平均実施率	48.12%	49.93%	57.32%	7.39%
④市民参加の質的な評価	ツバメのねぐらになっている赤坂下池について、水抜きやヨシ刈りなどの管理が課題となっていましたが、2022 年度にとよなか市民環境会議アジェンダ 21 自然部会がヨシ刈りに初めて参加し、豊中市と連携して自然保全につながる作業を行いました。	◎			

【自然との共生】の総合評価

<総合評価の補足説明>

- ①特定外来生物措置件数やタヌキ・キツネの相談件数の評価は「件数が少ない=出現数が少ない」ということを基本として評価を行っています。しかし、同じタヌキ・キツネに対して複数の相談が入る場合もあり、「件数が多い≠タヌキ・キツネの数が多い」ということも留意する必要があります。
- ②NPO アジェンダ（自然部会）行事参加者数は、過去 3 年間で増加傾向にあるものの、2019 年度の 717 人と比べると、まだ下回っています。
- ③構成団体の行動提案の実施状況は、2019~2021 年度の傾向に変化がありませんでしたが、「自然に親しみ学ぶ」「自然を守り育てる」「自然を造り広げる」のいずれも向上し、全体として実施率が 6 割近くにまで上昇しました。
- 今後は、「第 3 次豊中アジェンダ 21」の中間見直しに伴い、豊中の自然をより把握できる指標の設定を行うとともに、みどり率・緑被率の向上に向けた緑化や保全のあり方について引き続き検討していくことが求められます。

B

【歴史・文化】 身近なところで、育んできた歴史・文化・景観を感じられるまち

項目	指標名	2020	2021	2022	増減等				
①統計や行政の行動の指標	景観に関する協定件数	2 件	2 件	2 件	0 件				
	指定文化財数	87 件	87 件	90 件	3 件				
	保護樹、保護樹林数	137 本 10 件	135 本 9 件	133 本 9 件	△2 本 0 件				
②市民・事業者の行動の指標									
③構成団体チェックシート	行動提案の 3 項目の平均実施率	60.47%	50.29%	62.75%	12.46%				
④市民参加の質的な評価	2022 年 11 月に庄内栄町に郷土資料館が開館し、これまでよりも市民が豊中市内の歴史や文化に触れる機会が増えるものと見込まれます。								
【歴史・文化】の総合評価									
<総合評価の補足説明>									
<ul style="list-style-type: none"> ・①保護樹について、2017 年度の 140 本をピークに減少傾向にあります。 ・③構成団体の行動提案の実施状況は、「景観」とともに実施率が 15% 近く向上し、全体として 2020 年度の実施率にまで上昇しました。 ・今後は、市民が歴史や文化に触れる行事について、市民・事業者の行動の指標とするなどの設定が考えられます。 									
B									

※現時点では、市民・事業者の行動の指標が設定されていません。

【音・水・大気】騒音や有害な化学物質のない、きれいな水や空気があるまち

項目	指標名	2020	2021	2022	増減等	
①統計や行政の行動の指標	環境基準達成状況（大気・水質・道路騒音・航空機騒音・ダイオキシン）	88.0% 97.2% 94.5% 12.5% 100.0%	88.0% 96.8% 95.5% 0.0% 100.0%	—	0.0% △0.4% 1.0% △12.5% 0.0%	
	公害関係苦情件数（大気汚染・水質汚濁・騒音）	104 件	99 件	99 件	0 件	
	雨水貯留タンク助成件数	13 件	10 件	12 件	2 件	
	1人1日平均給水量	249 ℥	247 ℥	242 ℥	△5 ℥	
②市民・事業者の行動の指標						
③構成団体チェックシート	行動提案の6項目の平均実施率	70.16%	69.88%	77.45%	7.57%	
④市民参加の質的な評価	音・水・大気については、各家庭での実践により進められている部分が大きくなっています。引き続き、行動提案を実現するための取組みを設定することなどが課題です。				○	
【音・水・大気】の総合評価						
<総合評価の補足説明>						
<ul style="list-style-type: none"> ①環境基準達成状況の2022年度の数値が判明するのは2023年7月以降となるため、2021年度の数値を直近の値として評価しています。 ①航空機騒音は、新型コロナウイルス感染症の影響による航空機の離着陸が大幅に減少したことにより、2020年度に初めて1地点で基準を下回りましたが、2021年度は再び0.0%となっていました。一方で、道路騒音はわずかに改善しました。 ①公害関係苦情件数について、過去3年間で大気汚染は24→16→12件と減少傾向ですが、騒音は80→82→87件と上昇傾向にあります。また、水質汚濁は2021年度に1件だけありましたが、2022年度は0件でした。 ③構成団体の行動提案の実施状況は、「大気」の実施率が10%以上向上し、全体の実施率も上昇しました。 今後は、市民や事業者が実践できる身近な行動の指標が求められます。 					C	
※現時点では、市民・事業者の行動の指標が設定されていません。						